

虹色人生の先達が、次世代(若者)&北海道に、心に響く究極のメッセージを送る！ 一人2回連載。

人生への道しるべ

我々の日常の行動において大きなヒントを与えてくれる名言や格言、諺等は数多い。それは、先達の苦悩の中から紡ぎ出された珠玉の言葉でもあるからだ。

そこで、それらのいくつかを引き出して参考にした。

◇学歴無用論

かつて、ソニーの盛田昭夫が著した著書で、当時大きな反響を呼んだのが「学歴無用論」である。

東京大学を筆頭に有名校がその志望校の対象であった。それは、今でもそれほど変わりはなく風潮ではあるのだが。

盛田は言う。

「大学を否定するものではない。勿論、学歴を否定するものでもない。」

それに見合った「学力」を身につけているかが問題なのだ」と強調した。

さらに、新人社員を迎える入社式の席上「諸君がソニーを選んでくれた事には、感謝する。しかし、君達がソニーに入り自分の能力を十分に活かすことが出来ない」と判断し気づいた時には即刻他の企業を選択して欲しい。嫌々自分を殺してこの会社に居てもいた

ずらに無駄な時を過ごす事になり、お互いに大きな損失にしかならないからだ。」と、言うて退けた。

因みに、ソニーの人事資料には出身校の記述はない。

◇ホンダ宗一郎の6因子(日経ビジネス)

- ① 失敗力(試行錯誤で夢の実現)
- ② 現場力(現実を見極める)
- ③ 集中力(高い目標設定)
- ④ 獨創力(世界でただ一つ)
- ⑤ 世界力(ホンダ流を世界に種蒔き)
- ⑥ 勝利力(勝利への欲求)

ここにホンダの真骨頂が満ち満ちている。単なる、オートバイの会社に非ず。世界のホンダここにあり。

◇言志録(言志四録・佐藤一斉著)

①人には「寛」己には「厳」人に対しては、優しく自分には厳しく対処せよ。

また、春風を以てて人に接し、秋霜を以てて自らを肅(いましむ)意・人に対しては春風のように自己に対しては秋の霜を踏むように厳しく己を見詰めよ。

②人の短を言う勿れ、己の長を説く勿れ

意・人のあらさがしをするな。自分の自慢話をするな。得意になるな。

これは、結構難しい事ではないか。人間誰しもうぬぼれはあるもの。とかく、人間は、自身には寛容で他人には、厳しいのが世の常とか。

◇益者三友、損者三友(論語新釈)

①直(直言する)を友とし諒(誠実で裏表がない)を友とし多聞(広く古今に明るい)を友とするは、益なり。

便僻(直言しない)を友とし善柔(誠意がない)

(セキシン教育コンサルタント)

瀧口 庸行



瀧口 庸行
(たきぐち つねゆき)
1937年生れ。
◇経歴：國學院大學文学部卒：ソニー入社
◇主要著書：①経営実務大百科(ダイヤモンド社・執筆)②グループ運営ノウハウ講座(学研・共著)③教育研修技法ハンドブック(ビジネスレポート・共著)④月刊総務(執筆)
◇研修実績：①ソニー関連企業講師②中小企業大学校講師(東京)③日本経青年協議会・洋上研修講師④群馬県中小企業団体中央会講師⑤沖縄経営者協会洋上研修講師

い)を友とするは損なり。

意・益者とは、正直、誠実、博識ある人は友人として最高だ。損者とは、体裁ぶつて人当たりは良いが自分の為にはならない。果たして、友人とは何か。

友人 優人、有人、勇人、遊人、誘人、幽人、融人、憊人、悠人、郵人、憂人、自分を取り巻く「ゆうじん」には、どのタイプの友たちが居るだろうか。

真の友人を求めるとは自分自身が相手にとって求められるだけの力量をどれだけ示すことが出来るだろうか。

友人とは、それほど深く重い意味を持つ荷を背負っているに違いないのだ。

◇子供叱るな(詠み人しらず)

来た道だもの
年寄り笑うな
行く道だもの
来た道行く道二人旅
通り直しのできぬ道
来た道行く道峠道
山坂越えて人の道
行かねばなるまい
どうちみち。

人生の機微をこれほど見事に歌い上げた詩は未だ見たことがない。

◇イスラエルの諺

「二人の老人を亡くすことは百科事典1冊

を失った事に等しい。」

年寄り笑うな、馬鹿にするな。老人を大切にしよう。老人を労わろう。

◇友人環境決定論(岩波辞典)

人は善悪の友によるという。人は付き合う人によって悪にも善良にもなりうるものだ。人には沿って見よ、馬には乗ってみよ。ともかくも、人とは付き合ってみないと真実は掴めないということであろうか。

類は友を呼ぶ。と言う諺もある。

自分の人生を有益に過ごすためには大切な友人をきちんと選ぶことが何よりも肝要なことである。

◇自由とは(随想録・高橋是清著)

それ人間に二種の自由あり。一つを任意の自由と言ひ、一つを社会の自由と言ふという。任意の自由とは勝手気侷に何事も自分の意に任せ、さらに傍人の利害を顧みざるを言う。

社会の自由とは、他人の権利を妨害せずして、もって一身至当の自由を得て不羈の幸福を全うするをいう。到底遵守せざるべからざるものなり。

真の自由とは他人の自由を侵してまで行なうものではない。それは、自由のはき違えである。

◇念ずれば花ひらく(坂村真民詩)

何事も、常に心に思いを念じていれば、必ず成就するものだ。諦めず、根気よく、粘り強く願を込めて。